

第 16 回 性差医療情報ネットワーク研究会

「便秘診療をめぐる最近の話題」

東海大学医学部内科学系消化器内科学領域教授

東海大学医学部附属病院臨床研修部長

鈴木 秀和

便秘は青年期から中年期には圧倒的に女性に多い疾患であるが、高齢になると男性でも頻繁に診られる疾患である。便秘の原因として、背景疾患の存在や薬剤服用が考えられる場合もあるが、器質的疾患がないにもかかわらず、慢性持続性に便秘症状を呈する場合には、機能性便秘（FC）や便秘型過敏性腸症候群（IBS-C）といった機能性消化管障害（FGIDs）が考えられる。この FGIDs については、国際的には、Rome 委員会において、その疾患概念と診断基準、治療体系などが議論されており、2016 年に、Rome IV が発刊された。Rome IV の FC では、a. いきみ、b. 兔糞状便または硬便、c. 残便感、直腸肛門の閉塞感あるいはつまった感じ、e. 用手的排便促進対応（摘便、骨盤底圧迫など）、f. 排便回数が週に 3 回未満の 6 項目のうち、2 つ以上が要件となっており、必ずしも「排

便回数の減少」が必要ではない。一方で、IBS については、過去 3 ヶ月間、平均して少なくとも週に 1 日、腹痛が繰り返し起こり、1. 排便に関係する、2. 排便頻度の変化と関連する、3. 便形状（外観）の変化と関連するの 2 項目以上がある場合に診断される。しかし、実際の診療現場では、多くの場合、FC と便秘型 IBS(IBS-C) は、オーバーラップすることも多い。さて、本領域の治療については、実に 40 年ぶりに、わが国において、新たな上皮機能変容薬や浸透圧製剤が有力な薬物治療オプションとして追加され、便秘診療の体系化が必要とされている。そのような中、2017 年に慢性便秘症診療ガイドライン 2017 が発刊され、わが国初の便秘のガイドラインとして注目されており、新規治療オプションの登場とも重なり、便秘診療のパラダイムシフトが起こりつつある。

参考文献

1. Lacy et al. *Gastroenterology* 150:1393-1407, 2016
2. 日本消化器病学会関連研究会慢性便秘の診断・治療研究会. 慢性便秘症診療ガイドライン 2017, 2017, 南江堂]

略 歴

東海大学医学部消化器内科学 教授

鈴木 秀和 (すずき ひでかず)

Hidekazu Suzuki, MD, PhD, FACC, AGAF, RFF



職歴及び研究歴：

1989年 慶應義塾大学医学部卒業
1993年 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程所定単位修了
1993年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校研究員
1994年 博士(医学)(慶應義塾大学甲 第1292号)
1996年 慶應義塾大学助手(医学部内科学)
2002年 慶應義塾大学医学部・信濃町キャンパス・リサーチパーク
研究計画責任者
2005年 社) 北里研究所 北里研究所病院 消化器科医長
2005年 慶應義塾大学信濃町キャンパスリサーチパーク研究代表者
2006年 慶應義塾大学専任講師(医学部内科学(消化器))
2011年 慶應義塾大学准教授(医学部内科学(消化器))
2015年 慶應義塾大学教授(医学部医学教育統轄センター)
2015年 慶應義塾大学 大学院医学研究科委員
2016年 東京歯科大学内科学講座 客員教授
2017年 慶應義塾大学大学院医学研究科 大学院検討委員
2017年 慶應義塾大学医学部専修医研修センター・センター長
2019年 東海大学医学部医学科内科学系消化器内科学領域 教授

学会役員：

日本微小循環学会 理事長
日本ヘリコバクター学会 副理事長、日本臨床中医薬学会 副理事長
日本潰瘍学会理事、日本がん予防学会理事、日本神経消化器病学会理事
日本高齢消化器病学会理事
日本消化器病学会 財団評議員、日本消化器内視鏡学会 評議員
日本消化管学会 代議員、日本胃癌学会 代議員、日本医学教育学会代議員
日本酸化ストレス学会 評議員、日本自律神経学会 評議員
日本プライマリケア連合学会 代議員
American Gastroenterological Association Fellow (AGAF), AGA 国際委員
Fellow of American College of Gastroenterology (FACG)
Rome 委員会委員, Rome Foundation Fellow (RFF)
ANMA (Asian Neurogastroenterology and Motility Association) 理事

Associate Editor: United European Gastroenterology (UEG) Journal (SAGE),
Gastric Cancer (Springer Nature), JCBN (Nakanishi Pub.)

専門医等：

日本専門医機構：運営委員、専門医認定更新委員、共通講習ワーキンググループ委員長
日本内科学会 総合内科専門医 日本消化器病学会 指導医
日本消化器内視鏡学会 指導医 日本消化管学会 胃腸科指導医・専門医
日本肝臓学会 肝臓専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本プライマリ・ケア連合学会 指導医・認定医 日本臨床栄養学会 認定栄養医
日本ヘリコバクター学会 *H. pylori* (ピロリ菌)感染症認定医

賞罰：

2004年 第10回日本ヘリコバクター学会・小林六造記念ヘリコバクター賞
2007年 慶應義塾大学医学部三四会 北島賞
2011年 日本消化器病学会 第3回 Journal of Gastroenterology High Citation Award
2011年 日本酸化ストレス学会学術賞 (The SFRR Japan Award of Scientific Excellence)
2018年 平成29年度日本ヘリコバクター学会学術賞 (臨床)

研究業績：

英文原著 (258編) 英文総説 (86編) h-index: 48